事例No.	2500
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	株式会社ホップジャパン

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・新たな政策手法の確立・活用 ・関係人口

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

過疎地域のリソースを産業循環エコシステムで活用し中央あぶくまから発信、あぶくまブランドを造成する

出典

令和5年度優良事例表彰一覧

全国過疎地域連盟会長賞

福島県田村市（たむらし）

株式会社ホップジャパン

過疎地域のリソースを産業循環エコシステムで活用し中央あぶくまから発信、あぶくまブランドを造成する



ビールの原材料であるホップの栽培から手掛けており、夏にはホップの収穫体験を行っている。県内旅行会社の協力の元、
地元ホップ農家の畑にて収穫体験を行い、ホップ畑に設置したダイニングで料理とクラフトビールを楽しむツアーなども開催している。

審査講評

評価のポイント

- 震災をきっかけに遊休施設となったグリーンパーク都路を復興の拠点として有効活用し、異なる役割を持った人、こと、ものを有機的につなぎ合わせて地域振興を実現。
- 震災復興のためにスピード感をもって、田村市でしかできないオリジナリティのある持続可能な産業の仕組みを確立。

審査委員のコメント

“100%地元産原料”というブランド力が強みに。

阿武隈高原の冷涼な気候、極めて情緒的なブルワリーを含む拠点の豊かな自然が、100%地元産原料で醸造されるビールの美味しさ、商品としての魅力にさらなる価値を付加していると感じました。

観光の目的として挙げられる上位項目が「食」。ブルワリーを核とした現在の敷地内でのさまざまなコンテンツの中に、食のコンテンツ（食体験、飲食店など）が加わり、より魅力的な拠点として発展することに、これからも期待したいです。



取組の概要

2000年代初頭に途絶えた福島県のホップ農業を地元農家と復活させ、ブルワリーを開業し、地域活性化の一翼を担っているほか、ビールの製造過程で排出されるホップや麦の粕を肥料として活用するなど、資源の再利用を行い、地球にやさしいまちづくりも実践している。

また、新しい価値観に基づいた企業誘致の手法「LESIP」にも取り組んでおり、実際にその理念に共感した人が移住を予定しているほか、新たな企業が地域に進出するきっかけにもなっている。



「循環」で持続可能な社会づくりを感じてもらうテーマパークを目指し、ビールを核に1次産業から6次産業化につなげていく。



「グリーンパーク都路」内の建物を一部改修して開設したホップガーデンブルワリー。



地元住民と協働してホップの手摘み収穫に適した新たな方法を開発するなど、途絶えてしまったホップ農業を新たな形で復活させた。



田村市都路地区の魅力を感じてもらい、人と人、人と地域に「つながり」が生まれるようにという思いの元、「つながりマルシェ」を開催している。

取組のKEY PLAYER



本間 誠さん
[株式会社ホップジャパン 代表取締役]

ビール造りと地域への想いを形にしていく。

アメリカ留学でクラフトビールに感銘を受け、帰国後にホップ栽培を始めました。震災を受け、「残りの人生を地球のため、価値あるもののために使いたい」という思いから起業し、復興庁の紹介で、原発事故の被災地である都路町へ移住しました。初めはホップを栽培してくれる農家探しに苦労しましたが、今ではホップ栽培からブルワリーでのビール造り、提供までの6次産業を行い、さらには、製造過程で出るホップ粕も肥料として再利用するなど、0次産業と名付け地域で産業が循環する仕組みを理念として取り組んでいます。今後は、飲食店を誘致することで、県内外から人に来てもらえるようなテーマパークを目指していきたいと考えています。

審査による現地調査でのヒアリング対象者

本間 誠さん［株式会社ホップジャパン 代表取締役］

福島県田村市（たむらし）

団体名 …… 株式会社ホップジャパン
所在地 …… 〒963-4702 福島県田村市都路町岩井沢字北向185-6
連絡先 …… TEL：0247-61-5330
E-mail：information@hopjapan.com
URL：https://hopjapan.com/



自治体・団体の詳細は
こちらからご覧いただけます。